

います。教員は数年で異動していくけれど、地域の方々はずっとそこにおられるので、子どもたちも地域で育ち、一旦町外に出たとしても、また戻ってきて地域で同じように活動し、次の世代を育てていく。そういう持続可能な「子どもたちが地域で育つ町」を目指して、地域の方々が育成に関わっていただけるような取り組みをしていこうと思っています。

山内 益城中では、学校運営協議会や民生委員の方々が中心になって、子ども民生委員の取り組みを始めています。学校と連携を取りながらも、可能な限り先生方に頼るのではなく、私たちがそのような役割を担っていければと考えています。あいさつ運動でも朝の自習時間出席しなくてもいいようにするなど、先生方にご理解・ご配慮をいただいているので、すごく動きやすいです。

学校運営協議会の会議には生徒も参加してもらい、子どもたちの意見をメインで考えるようにしています。今後は学校運営協議会だけでなく、私たち数名と生徒会で「ミニ協議会」のような交流会



山内明さん

を定期的開催するなど、話をする時間をいただきながら、進めていきたいと思っています。ゆくゆくは、中学生が考えた何かをやってほしいですね。

井下 今まで地域の方が子どもたちのために何かしたいと思っても、どこに相談したらいいか、学校でどんな困りごとがあるか分からない状況だったのが、学校運営協議会という一つの会議体ができることで、「こういうことに困っているみたいだから、私にはこれができる」というのが分かるようになったと思います。先生方や生徒たちとも関係性を築くことで、次のやつてみたいという気持ちにもつながりますよね。

そして、単年で終わらないのが学校運営協議会の魅力ですよ。先生方や行政の担当の方が異動されても、今までの流れを踏まえた今後の展望などを地域の委員から伝えることができるのはすごくいいことだと思います。

山内 ここ数年で動き出したという感じがありますよね。今年度新たに加わった益城中の学校運営委員も早速動いていただいて、惣領神社で月1回、地域の方と一緒に清掃活動をするようになりました。先日は健康体操まで中学生も一緒にしてみたいで、どんどん活動が発展しています。それぞれはそんなに大きな行事ではないかもしれませんが、いろんなことをする中で生徒会メンバーから全生徒に広めるように提案しています。

もう一つ、中学生に対して「あなたが先生になることもできるんじゃない？」という提案もしています。自分が苦手なことでも得意な人がいると思うので、得意な人が先生になって教室を開いてみるのも面白いんじゃないかと。生徒であり、先生でありという感じで、町全体が活性化すればと考えています。

井下 木山中では地域の方との清掃活動をやる中で「もっと自分がやってみたいことをカタチにしたい」という生徒の意欲が見えてきました。

松野 自分が見えたいところを掃除するというのがありましたよね。

堅島 あれは好評でしたね。最初は主催者が清掃場所や作業内容を決めていま



堅島尚記さん

したが、回を重ねることに生徒たちのやることが見えてきたので、自己申告制で募集しました。すると自分たちで清掃したい場所を申告し、時間の限り一生懸命活動していました。活動後に感想を書かせたら、「時間が足りずに全部できなかった。悔しい」と書くような子もいて、これはすごいなと思いました。これから清掃活動以外にも、自主的に自分たちでやりたいことを考えさせたいと思っています。

誰でも参加できる 学びの場の実現に向けて

松野 退職された方や高齢の方など、何かに参加してみたいけど何をどうやっていいか分からないという方がいると思うんです。そういう方たちとどうやったら一緒にやっていけるかというのは、今後の可能性だなと思います。まだ出会っていない方に会いたいです。

倉岡 最初の一步を踏み出すのは大変ですよ。

山内 広安小でのあいさつ運動でも、地